

はじめに

一月一日に発生した能登半島地震に際し、心よりお見舞い申し上げますとともに、被災された皆様方の一日も早い復興をお祈りいたします。

瀬戸の海を臨む渋川海岸に建つ西行法師の像に一礼をして、白砂青松の浜に佇むと、悠久の歴史を感じて心を癒やされます。

西行法師（一一一八～一一九〇）は全国各地を行脚し、一一六八年、四国行脚の途次には、当地渋川を訪れ、次のような歌を詠んでいます。西行五十一歳の時でした。

下り立ちて浦田に拾ふ海人あまの子はつみ（ツブ貝）より罪を習ふなりけり

この旅において西行は、海辺に暮らす海人や商人たちの生業を眼前にし、仏者としてもどうすることもできない人間の根源的な罪と生への営みに思いをはせた歌であり、その思いは渋川で詠まれたこの歌に端的に表れています。

当地では、その故事を後世に伝えるべく銅像と歌碑を建て、毎年「西行まつり」を開催しており、「西行賞」はその一環として「地域文化の向上」を図るために制定されたものです。毎年度全国各地より応募があり、今年も応募者数三七一名より五五二首（高校生二四九名より三二九首、一般二二名より二二二首）もの多数の応募をいただきました。

西行賞にご応募いただいた皆様及び作品の審査を行っていただきました岡山県歌人会理事の濱田棟人先生をはじめ、ご支援いただいた関係者の皆様に、心より感謝申し上げます。

玉野市西行賞実行委員長 藤原 多恵子

西行賞（最優秀賞）

題 その町の図書館からは海が見えそれだけだけだと思いい出となる

奈路 侃 東京都世田谷区

（選者評）

図書館はそこで出合った本や人が思い出となるが、窓から見えた風景も長く記憶に残るだろう。世界から一步離れた感じで眺める山や川や海あるいは街と人の動きなど、いつもとは違う見え方がある。そこからどんな影響を受けるのか興味深い。

優 秀 賞

自由 君いつもいい人だけど地球から決して見えぬ月の裏側

山本 里枝 岡山県美作市

(選者評)

特別の装置を使わない限り地球から月の裏側を見ることは出来ず、同様に見えにくい人間性の良さがあると言われると、なるほどと思う。分かりやすい「いい人」という外見の印象とは別に、長く付き合っただけで見えてくる良さもある。

自由 空っぽの水槽のような夜のバスやけに明るい淋しさが行く

河崎 展忠 岡山県玉野市

(選者評)

乗客がほとんど(あるいは全く)居ない夜のバスを、「空っぽの水槽」にたとえて、「やけに明るい淋しさ」と感じた。一首の短歌で表現されるとその通りだと思いが、なかなか思い付かない表現だ。「淋しさが行く」の結句もいい。

題 春風に撫でられるため海はありまどかならざる星にあつても

片岡 秀樹 千葉県柏市

(選者評)

上句だけであれば少し気のきいた表現だと思ふものの印象はさほど強くないが、下句と合わせて読むと、背景の現実が迫ってくる。風に吹かれる海のおだやかさ、それとは逆の最近の地球の緊迫した状況、どちらを主に読むか。

佳作

自由
真直ぐな線ばかりではくたびれる匙の丸味が癒しをくれる

杉山 太郎 神奈川県横浜市

(選者評)

理屈だけで成り立っているようにも見えるが、「匙の丸味」の具体が目の前に何かがあると想像させる。また短歌定型のリズムも心地よい。

題
ジーンズの裾を折り曲げ海を見る夫の姿よ若き日のごと

上田 万寿美 石川県小松市

(選者評)

若々しい姿で海を見ている夫の様子がかつての青年を思わせるのだ。「若き日」はもう戻ってこない日々なのだが、一瞬の飛躍を感じさせる。

題
終点はわが古里の海にして「ホーム」に一両電車が停る

砂田 有希子 千葉県千葉市

(選者評)

今の現実の光景でありつつ、時間が停止した夢の世界のようにも見える。のどかな言葉の連なりが幼い頃のふるさとや家庭を思わせるのかも知れない。

佳作

自由
秋祭りの神輿を担ぎし子供らは疲れて日暮の寂しさにゐる

林 良三 岡山県玉野市

(選者評)

上句の華やかで賑やかな様子が下句では一転して「日暮の寂しき」に移っている。祭りの始まりと終わりはこういうものか。転換が鮮やかだ。

題 「良かったら鰯持つてけ」 港にて声かけくれし見知らぬ漁夫よ

海神 瑠珂 岐阜県郡上市

(選者評)

威勢のよい現場でいかにもありそうな場面だ。実際に持つて帰ったかは別として、心地よいやり取りだろう。「鰯」という具体もいきいきとしている。

題 海亀は今年の夏も来なかつた浜の清掃続いているのに

坂東 典子 徳島県阿南市

(選者評)

「今年の夏も」とあるから浜の清掃は毎年続けているのだろう。不在の海亀の存在感が一首の中でずしりと定着している。来年はどうだろう。

特別賞

題 青い空海から見ても同じなの魚に尋ねる幼児の真顔

尾子 あい 三重県立紀南高等学校

(選者評)

空の青さは陸から見ても海から見ても同じだろうと思うものの、どうなのかと魚に問いかけている。この幼児と魚との対話が一首を立体的にしている。

自由 授業中はたと目が合うその瞬間わざとそらして気づかないフリ

野上 莉瑚 ノートルダム清心学園
清心女子高等学校

(選者評)

「はたと」「わざと」、この二つの副詞の使い方が状況を的確に表わし一首のリズムを生み出している。「気づかないフリ」もどことなくほほえましい。

題 夜風吹く季節外れの海辺にて波音だけが私を呼んだ

水野 愛果 武蔵野大学附属千代田高等学院

(選者評)

若さよりも表現の巧みが前面に出ており、完成度の高い一首だ。夏が過ぎて寒くなった秋の夕暮に、人の声ではなく波の音だけが私を呼んでいるのだ。

特別賞

自由
頬に降る長い貴方の髪の毛が休みを明けて短くなった

富岡 優月 群馬県立高崎高等学校

(選者評)

長い髪、「休みを明けて」短くなった髪、どちらも印象的だ。こういう時間経過をはさんだ表現は意外に難しいのだが、うまくまとめられた。

題
寄せてくる波に人差し指つけてどこかの星の声を聞きおり

福田 匠翔 名古屋高等学校

(選者評)

たまに別世界からの到来を感じることがある。寄せてくる波に地球以外の星からの声が混ざっている気がするのだ。「人差し指」の具体がいい。

応 募 作 品

(各一首ずつ投稿歌を印刷しています)

自由 片脚のうろくづのごと記憶なり消えることなき戦は祖父の

六月朔日 光

福岡県福岡市

自由 夏立てど山は小雨に霞みたり雀の音のみ遠くに聞こえ

上田 俊朗

石川県小松市

自由 わくら葉のことば知らねどこわらはのこころのなかへ川は流れる

醉生夢死

岡山県岡山市

自由 目覚めれば外涼しげな虫の音秋はそこまで近づいている

三宅 貴子

岡山県高梁市

題 出家した西行法師渋川で砂を見つめて四国眺めぬ

内田 武宏

岡山県岡山市

自由 風光る一目惚れ映ゆ綻ぶや彷彿を沁む虚空へ逸る

田上 智佳士

熊本県熊本市

自由 空知らぬ夏の雪降る蕎麦の花松前神楽豊穰を舞い

鎌田 誠

北海道札幌市

自由 微笑みをひ孫にのこし父を追いたらちねの母死に給うなり

東家 芳寛

佐賀県佐賀市

題 瀬戸の春入日なかの吊り橋をゆるりとゆけば海の煌めく

野上 卓

東京都世田谷区

自由 捩摺のよぢれねぢれて生一本来世もきつと私はをんな

松田 早苗

茨城県つくば市

自由 川のように燈火流れるその先の君住む街は光の洪水

石田 正流

大阪府大阪市

題 万の波産み続けゆくわだつみの中心にいる慟哭の巨人

瀬戸内 光

山口県光市

題 荒波の高き波形そのままに白き雲行く秋の朝空

上田 康彦

千葉県四街道市

自由 ニューズでは危険な暑さ今日もまた普通の夏は何処にいつたのか

佐藤 春夫

東京都足立区

自由 忘れまじ野菊の強き思ひ馳せ戦中戦後学舎偲ぶ

濱田 とよ子

岡山県勝田郡

題 西行は西へ行つたし西行よ東へ行かば高杉さんよ

松岡 哲彦

山口県周南市

題 渋川の海辺歩けば藤香り瀬戸内の空へ春愁消える

木登 あお

兵庫県姫路市

自由 見霽かす瀬戸の島々名指し居れば突如よぎれるハングラライダー

花岡 鈴子

岡山県倉敷市

題 花鳥と散歩しながら歌を詠む法師にまなぶ脳ストレッチ

川井 ゆう

東京都調布市

自由 深呼吸してからあなたを吸い込んでわたしに染まったあなたを吐き出す

堀 将大

岡山県倉敷市

題 鳥羽王の闇に抱かれた海の色黒いけれども波は白いよ

木村 浩

埼玉県春日部市

題 波時計西行だけが知っている永遠の旅永遠の夢

屋敷 旺甫

京都府京都市

自由 山道の花の賑はひ聞こへ来て西行庵に囀り戻る

堀ノ内 和夫

奈良県奈良市

題 娘連れまたこの海にやってきた海の学習から二十年

宮崎 華瑠夫

広島県広島市

題 ケ・セラセラ 高き空に翺雲・人の途絶えし海を見にゆく

若林 とし子

岡山県岡山市

題 お地藏に西行く道を尋ねおり美空ひばりがテレビで歌う

鎌野 廣

岡山県玉野市

自由 かなしみをまじへて法師蟬の鳴く夕べ未だに葛は蔓のぼしるる

林 登美子

岡山県玉野市

題 幼き日母と訪ねた瀬戸の海変わらぬ波音歳月刻む

寒川 靖子

香川県丸亀市

自由 幼稚園バスのルートが変更し散歩のわたし覗かれる朝

石田 泰生

埼玉県狭山市

自由 自転車のライトが轍を照らすだけ星一つなくバイブル・ブラック

前田 達生

兵庫県神戸市

自由 風立ちぬうねる白髪たなびきてニセコの雪にオンブレつくる

前田 素代

兵庫県神戸市

題 年老いて子供の頃の「たはぶれ歌」詠んだ西行命輝く

千代

岡山県玉野市

題 山の子に潮のからさを教えんとバス待つ合間手を引き母は

森貞 和子

岡山県倉敷市

題 西行の亡くなりし日は如月の花咲きたるか月満ちたるか

溝手 圭子

岡山県都窪郡

自由 折り紙で園児と作りし手裏剣をシュシュと放ち忍者となりぬ

道廣 睦子

岡山県玉野市

題 にこにことただにこにこと岩わらう瀬戸を行き交う舟をながめて

吉田 智子

岡山県玉野市

自由 待つ人のいない私にも夕照が迎え入れたり茜の光

豊代 瑠子

石川県金沢市

自由 木の元に福寿草が顔のぞかせば春の吐息を間近に感ず

茅野 和子

岡山県倉敷市

題 水平線を見ているわれのくるぶしを触れてはふれる白きさざ波

東 洋子

岡山県倉敷市

自由 朝起きてパソコン開き夜になりパソコン閉じて一日終わる

益田 信行

兵庫県神戸市

題 佐藤捨て一途に歌道義は捨てず世に遺せしは歌の碑あまた

申春

愛媛県東温市

題 讃岐へと渡す架け橋眺めつつ何思うらん日比の西行

高田 明洋

埼玉県春日部市

自由 またひとつできなくなった人愛しつながらよ人「え」の口をして

藤井 きょう

岡山県笠岡市

題 海面より湧き上る霧の包みゆく瀬戸の島々は幻となる

松下 政子

岡山県玉野市

自由 八十路近き兄弟電話いつまでも堂々巡りで決着はなし

赤松 菊夫

福岡県北九州市

自由 麦入りのご飯の弁当隠してた今はわざわざ麦買ひ入れる

松本 進

山口県光市

自由 幼児期を語られるのがやな娘無い無口な父がイイらしい頃

岩本 稔

香川県綾歌郡

自由 秋風に添え花揺れる友の墓手招きをして我を呼ぶのか

オペラマン

東京都荒川区

自由 限界の集落巡る靈柩車片陰にまた友を見送る

原 比呂子

大分県国東市

自由 下り坂ゆけば追い風に賑やかな落ち葉の群れが追い越してゆく

松下 弘子

鹿児島県伊佐市

題 せきじつが水平線へ落ちていく還らぬ日々を背負いあしたへ

木佐 優士

島根県出雲市

題 西行の世も今の世も殺生をして人は生きゆく

平元 薫

岡山県玉野市

題 渋川の砂浜ゆけば波の音つかれて寂し九月の海辺よ

谷川 敬代

岡山県倉敷市

題 この海に夕日がジュツと沈んだら冷めないうちにプロポーズする

感王寺 美智子

福岡県朝倉市

自由 くろしほの頻波洗へば角取れて黒く光れる御浜の小石

岡田 正信

三重県津市

題 夏潮を絞りつくして少年の拳骨ほどの水泳パンツ

清水 良郎

愛知県名古屋市中

自由 茅ぶきの荒れ朽ちたる家さびし目指す黄泉路はかくはあらじと

さっちゃん

東京都荒川区

題 幾重にも巻き返しつつ波消しのブロックに寄する波の穂の先

白藤 巳玲

埼玉県本庄市

自由 君が見た世界を思うあのとときに君の孤独に寄り添えたなら

よし

北海道標津群

自由 クモの巣の編み物工房のぞいたら講師もおらずただもくもくと

大山 秀美

岡山県玉野市

自由 形なき言葉が重なりSNS他人の心壊すも癒すも

美都 岡山県玉野市

題 人の世は浜辺たたずむ浦島か花宴は遠く夢の如くに

池田 智泰 東京都八王子市

題 讃岐富士海の向こうにおぼ眠る引き揚げた児は今七十六

横山 弘子 岡山県岡山市

自由 鬼女台より遠望すれば大山の山容くつきり秋天の下

鈴木 雄二 岡山県岡山市

題 従兄姉らと渋川行きバス待ちし「和田社宅前」通り過ぎたり

小山 潤子 岡山県倉敷市

自由 木のくれの石の参道苔むして今は昔の神明の森

小竹 哲 兵庫県宝塚市

題 世は無情悲運の帝の鎮魂に瀬戸を渡りし西行やさし

宮内 浩司 岡山県岡山市

自由 幼子に真昼の月はあばかれる染まらぬ真白なものだったから

横山 朋子 岡山県岡山市

題 瀬戸内の海の匂ひを浴びながらテトラポットでめばるを狙ふ

濱岡 学 京都府宇治市

題 青空に映える古寺など良けれども私はやはり波のきらめき

赤木 由起江 岡山県玉野市

題 光跳ね波を連れいく瀬戸の浜踏み行く砂は柔らかに浮く

泉 耀 岡山県玉野市

題 虚空の塔草茂に映ゆる大海原霧立ち行けば神のまにまに

淡路 すあま 神奈川県横浜

自由 冬隣朝日に照葉揺れる時我が身憎しと涙一筋

笹木 三鈴

北海道河東群

題 人を呑み軍艦を呑み処理水をも呑まされ苦しからむわたつみ

飽浦 幸子

岡山県倉敷市

自由 澄みわたる今朝の空なりはればれとわれが差し出す退会届け

小田 みほこ

岡山県倉敷市

自由 母と見た最後の桜覚悟して病室に生け母笑みて逝く

黒岩 博美

岡山県赤磐市

題 あかときに燃ゆるごと建つ造船所進水式の近き心配す

木口 春喜

岡山県岡山市

自由 レッテルは貼られしものの憂へなし手帳とともにいけるとこまで

斉藤 隆

青森県北津軽郡

自由 花野にて幼き頃の母思うその一生は慎ましけれど

鈴木 実峰

山形県山形市

題 瀬戸内を巡りスマホで歌を詠む我もだれかの西行法師

竹内 芳

埼玉県白岡市

自由 秋空を見上げるぼくのおっさんの体にもある夢という音

山岡 すべり

三重県名張市

題 渋川に寄せるさざ波聞きながら吾子つれ君と歩む喜び

川上 喜代美

岡山県岡山市

自由 朝の声籠もる夫と繰り返すいろはにほへと意味深くして

野村 貞江

山口県周南市

自由 沼田場よこ地籍調査に刈りながら杭を背負ひて沢を登れり

徳永 逸夫

高知県須崎市

自由 二機の雲エックスの字に広がりて伸びてゆきたり空の高きに 中平 妙子 高知県須崎市

自由 生きてゐて良かったなあと思ふことあるから生きると山田洋次は 武下 律子 岡山県玉野市

自由 きつちりと刈込みされし茶畑が小春の旅の車窓を走る 清塚 茅香子 埼玉県本庄市

自由 常ならぬ夏日の秋を惜しみしも時至れりと南天色づき 村上 朋子 岡山県玉野市

題 並び浮く五羽の海鳥家族かなうらやましくもいとしくもあり 旦 みほり 神奈川県横浜市

自由 残りたるおこげのごはんおにぎりにおいしくなれと手の中おどる 石橋 和枝 熊本県荒尾市

自由 コップに活けた赤い一輪の花荒んだ暮らしに丸みを帯びる 迎 和那 東京都板橋区

自由 肉まんの底を離れた薄紙がすぐに冷たくなるよ冬だね 山田 裕樹 神奈川県横浜市

自由 蝶々は裏切り者よ虫からは羽とられてもお前は泣くな 小谷 徹 兵庫県神戸市

題 羊水を覚えているかみどりごは波音を聞き眠りに落ちる 水上 なつ 岡山県岡山市

自由 高層のビルで働く人が言う三十三階は程よい高さよ 大島 友美恵 大阪府岸和田市

自由 球切れのマシンに拾ひ集めたるを喰はせ儀打の稽古再開 遠藤 玲奈 東京都文京区

自由 考えて考え抜くこと 鶏が三度泣いても諦めぬこと 柳 なつき 東京都足立区

自由 発色の町を描きたく持ち運ぶ二十四本入りの感情 五月閉じ花 北海道札幌市

題 拝啓チヌあの海と宇那を従えておれの帰りを待っていてくれ 小嶋 響 山形県山形市

題 戦死せし父の過ごした海のある舞鶴今は私の住む町 鯨本 ミツ子 京都府舞鶴市

題 西行庵の桜も老いてあわれなり令和の桜と名づけて植樹す 鶴崎 博文 広島県呉市

題 玉野市のメバル漁りては骨を継ぎ法師涙し悟りて喰らふ 八幡 潤一郎 神奈川県茅ヶ崎市

自由 ブロッコリー葱に白菜それぞれの緑が織り出す一枚の畑 中村 みほ子 神奈川県足柄下群

題 花たむけ西行庵より下りゆく山路にひびく小牡鹿の声 福庭 加恵子 広島県呉市

題 渋川の浜の何処に西行の足跡未だあるやも知れず 内村 佳保 東京都武蔵野市

自由 百十歳見事な人生大叔母の往生告げる息子は米寿 加藤 壽子 京都府京都市

自由 一枚の喪中がきにアルバムを取り出して思ふ我らの五十年 守屋 遵志 岡山県倉敷市

自由 空青く息吐くように見あげれば亡き母樽に漬けしシブ柿 南雲 和代 東京都北区

題 音楽室は二階にありて沙美の海を見つつ歌ひき「浜辺の歌」を

川口 眞純

岡山県玉野市

自由 まっ青な空と海へと伸びる樹の光にたわわと実るオレングジ

渡邊 直子

岡山県玉野市

題 渋川の浜辺幾年さすらふも波面はやさし西行の声

坂本 慶子

岡山県玉野市

自由 娘駆けおたけがくるよどちらさまハロウインの仮装したじじ

濟川 紫香

岡山県倉敷市

題 さあ行こう時は満ちた湧く勇氣恋も仏教も思うままに

限界東高生

千葉県立
千葉東高等学校

自由 あいにくの雪に足元滑らせる行方も知らぬ我が受験かな

招き猫

千葉県立
千葉東高等学校

題 常よりもしばの庵は風荒く一人寂しく寝るにも寝れず

あつきー

千葉県立
千葉東高等学校

自由 願わくは痛くしないで花の棘花より団子望む老衰

風

千葉県立
千葉東高等学校

自由 願わくは桜の下にて笑顔咲き第一志望の門をくぐる

るな

千葉県立
千葉東高等学校

題 フューチャーをいかで求めむゲームして苦しき死出の山へかからで

酒井 悠真

千葉県立
千葉東高等学校

自由 くだらぬと四季もわからぬビルの群れ人の意のまま時のうつろい

石井 裕太

千葉県立
千葉東高等学校

自由 今日明日と花も月も移りゆく私は未だ変われないまま

大塚 紗由

千葉県立
千葉東高等学校

自由 もふもふの毛布に今宵は埋もれて七十二時間夢見たい

玉野市大好きマン

千葉県立
千葉東高等学校

題 行き先は花も盛りの吉野山西行さんに会える気がして

岩沢 優花

千葉県立
千葉東高等学校

題 弘川で海棠桜の咲くころに仏は空でまた一句詠む

春田 蓬東

千葉県立
千葉東高等学校

自由 チェリストが「こう持つんだよ」と呟き違和感を抑えるヴィオリスト

竹田 詩音

ワシントン
日本語学校

題 真つ暗な部屋でベッドにただひとり海の底まで沈んだみたい

豊田 夏芽

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 砂浜の足跡ひとつまたひとつこの足跡はこのひとのもの

安原 慶介

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 さらにさらさらと流れる砂を触るとき爪にくいこむ粒が気怠い

大坪 萌々香

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 腹いっぱいもう食えないぞ海のうえ光しずんでお腹すいたよ

大竹 琉星

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海は青空も青色きれいだよグラデーションはなるわけないか

鴛巢 颯太

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 砂浜を歩いた後の爪見たら砂がつまってそこに砂浜

櫻井 柊

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海来たら貝がらながめ美しい考えてみると脱皮と同じ

須田 帝輝

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海へ行き筋トレしたらムキムキにしたら俺はえらいモチモチ

高橋 悠馬

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 砂浜で海水飲んでシヨッパッピー君の涙はどんな味かな

バシコシコーン

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

自由 二年前昼のご飯はなに食べた私的にはおにぎり二つ

木暮 溪人

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 恋をしてまともになれない西行は髪をなくして新たな自分

永井 沙樹

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 目のやり場困ってしまう砂浜ではしゃぐ大人は見えていられない

藤巻 勇也

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

自由
けしゴムのケースの角の湾曲のうねり具合が指を守ってる

神田 涼

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海に映る逆光導く十六夜に伸ばす指先私ははだし

横坂 莉奈

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 砂浜の足跡波に撫でられて消えるでこぼこ増える思い出

伊勢野 煌凌

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 ふとしたら海の中にて光る石二度と見られぬ弱いしかな

一二三

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海面と太陽でできる海の道子どものように今走り出す

小鮒 隆之介

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 疲れてた仕事終わりの帰り道ふと見上げたら海の夕暮れ

原山 颯良

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海水で砂を流している君の一步後ろは元の世界だ

石田 翔琉

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海もぐりイカだと思っておいかけて気づけばクラゲで腕パンパン

竹淵 侃

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

自由
とまらない風になりつつまいあがる棒をとびこえ芝生は揺れる

荒木 優雅

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海の日に夕明け見えて思うこと景色がきれい一人つぶやく

佐藤 蒼空

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海よ聞け私の思いを消してくれ不安や不満数えきれない

澤邊 充斗

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 潮風を鼻で感じて外を見るまだおぼろげな視界瞬く

真庭 悠晴

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 人を見るただ青い空明日は雨知らぬが仏白い砂浜

櫻井 遼

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 冬になり水着をはいて海へ行き入つてみるとすぐ寒いよ

戸部 佑飛

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 あら不思議いつもと違う海の色ブルーな気分にはワイを添えて

てりたまどん

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 秋の海歩いていれば夏の日流れついていたビー玉見れる

上出 拓弥

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 ビーチフラッグ赤白黄色上がる雲光線かかりこもる海風

緋路

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 果てしない海の得技は色変わりまるであなたはカメレオンかな

齋藤 駿

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 うみの水よごれを洗う清き水社会のうみも流してほしい

鈴木 綾馬

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 夏の日イルカは居るかて友が言う静まった中鳴った風鈴

西勝 遥人

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 太陽がジリジリ照らす砂の城波にゆられる青い宝石

白石 愛來

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 空の中温かい風吹く時に海に冷たく苦しく映る

弘

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 砂浜で海水飲んで腹膨れ屋台行つても食欲わかず

千葉 翔太

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 日があたり一面光るどこまでも海はみんなの宝物かな

露

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 貝殻を拾う親子の姿見て微笑む私夢のまた夢

西行の師匠

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 思い出す海風に乗るあのおい今頃なにをしているのだろう

星

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 西行が助けたお札に顔みせる惚れたはいいが心ここにあらず

安達 明莉

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 一目惚れ頭を丸め短歌旅慌てん坊の西行さんだ

丸山 蓮斗

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 砂浜でおもい過ぎたあの頃にあの子と過ごすのが登校時のよう

笛木 優樹

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 大出血忘れもしない六歳頃海に飛び込み手を切ったこと

野村 芯

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海の中潜ると一面真っ青だしよっぱさも知らずにただただ青い

須田 龍河

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海に行き私と同じ水着の人どっちが先に選んだのかな

篠田 美優

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海の中自分の目では見ていないいつか必ず見てみたいなあ

星野 賢志

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 潮風が運ぶは知らせ波の音ゆらりと動き夏は過ぎゆく

津久井 茜

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

自由 最後まで側で見続け桜散る人生ささげ何を考え

津久井 啓

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

自由 願はくは話を知ると思い出す桜の下で現代文を

木内 瑠音

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 一ミリのお前は砂かそれ以外波に運ばれる私は独り

ムカデノヨシノ

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

自由 あの時女性の顔を見なければもつと違った人生だったか

佐藤 絵摩

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 海の声聞こえてくるのは波の声耳を向けても海はしゃべらん

藤川 善

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

自由 森の中当たる太陽芽生えた花濁いた日常あのカブトムシ

阿部 峻介

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 おとつとテトラポットを超えそうだ表面の雫うきわ冷や汗

小林 葵

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 蝶よりも儂き桜守り抜き新しい花卉歌人の世界

今井 日奈

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 ねがうなら陸で死なずに海へゆきたいカメの願望邪魔するカラス

生方 嘉月

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 サンゴ礁身にまとう青なにげなく昼の明るさ夜の静けさ

中澤 柚稀

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

自由 自分家の庭をながめて思い出す成長したなもみじとともに

湯本 真央

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 夕暮れと我が身の心しずむころきこえてくるのは波のさえずり

千明 咲斗

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 霜降る日朝日の昇る引き潮とおいでと呼んでる波のせせらぎ

富沢 大翔

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

題 夢みてた広くて青い空のよう泳げばいつか別の世界に

真庭 桃佳

利根沼田学校組合立
利根商業高等学校

- 題 砂の音流れるままに泳ぐもの雲の空ともにわたりかけていく
伊丹 勇樹
利根沼田学校組合立
利根商業高等学校
- 自由 倒木で電車止まってバスを待つ後出し判断友達帰る
鈴木 翔也
利根沼田学校組合立
利根商業高等学校
- 題 水しぶき跳ねて潮香にはしゃぐ君揺れるフリルは好みの水着
大西 祈惺
三重県立
紀南高等学校
- 題 夜明け前親と一緒に浜に出る初日の出見て挑戦誓う
古田 晴陽
三重県立
紀南高等学校
- 題 ひとつかみ小石を入れて箱揺らすそんな波音聞いたコロナ禍
木村 亜由美
三重県立
紀南高等学校
- 題 早朝の浜辺を一人ランニング応援のように波音が来る
植地 薫
三重県立
紀南高等学校
- 題 愛犬とリュックを背負い登頂す朝日とともに海が輝く
室 龍希
三重県立
紀南高等学校
- 題 寝転んで秋晴れの空眺めるとまるで海かと錯覚をした
山門 勇太
三重県立
紀南高等学校
- 題 前に見たサメの映画が怖過ぎて海に入れず泣いたあの頃
西 妃佐喜
三重県立
紀南高等学校
- 題 波音が一オクターブ高まった期待高まる夏が来たんだ
濱本 舞
三重県立
紀南高等学校
- 題 海の中意外と多いプラゴミは溶けずに残るやっかいなヤツ
伏野 莉緒
三重県立
紀南高等学校
- 題 冬の夜のコンビニからの帰り道昼間聞こえぬ波音近く
桐本 和希
三重県立
紀南高等学校

題 貝殻に耳を近づけ目をつぶる家のソファで波の音色を

鈴木 遙

三重県立
紀南高等学校

題 夢語る友と歩いた砂浜に波が消し去るサンダルの跡

西 彩花

三重県立
紀南高等学校

題 嫌なこと全部忘れて波音を聞いて夢中に貝殻探す

生駒 愛心

三重県立
紀南高等学校

題 中庭にランチメンバー勢揃い響く声はまるで荒波

川崎 永輝

三重県立
紀南高等学校

題 海岸で凧揚げしてる子どもたちあのころに帰る古き思い出

相浦 匠哉

三重県立
紀南高等学校

題 放課後の浜で恋バナ止まらずに気づけば汽車の明かりが見える

松井 姫子

三重県立
紀南高等学校

題 砂浜に美術部員が描く絵へとすぐ打ち寄せる波の消しゴム

大谷 歩

三重県立
紀南高等学校

題 失敗を責めず私を慰める海より深い母の懐

濱口 大輔

三重県立
紀南高等学校

題 山頂で見渡す海は人生をふと振り返る機会となつて

鈴木 まとい

三重県立
紀南高等学校

題 空の月照らす漁港の岸壁に寄せる波音辺りに響く

中西 良太

三重県立
紀南高等学校

題 バス停の前に広がる太平洋礒の匂いが鼻をくすぐる

岡崎 紫音

三重県立
紀南高等学校

自由 弁当が一段増えた誕生日インスタ映えの色どりも増え

更谷 あいな

三重県立
紀南高等学校

自由 大の字に二人寝転び思い出すいたずらをしてふざけてた頃

桐本 梨月

三重県立
紀南高等学校

自由 風薫る頃に毎年行く旅行行き先巡り皆でジャンケン

下川 美沙姫

三重県立
紀南高等学校

題 通学路汗かき登る浜の坂聞けば涼しいさざ波の音

佐藤 未来

三重県立
紀南高等学校

題 下校道立ってペダルを漕ぐ風に潮の香りと流れる雲と

坂本 陽菜

三重県立
紀南高等学校

題 夜釣り行き月の光が反射する水面を見つめた当たり待つ

福嶋 倭

三重県立
紀南高等学校

題 親友と夜の堤防腰かける本音次々波の数だけ

野口 りこ

三重県立
紀南高等学校

自由 流れ星大きな空に流れ去るしばし静寂僕らを包む

竹田 奈央

三重県立
紀南高等学校

自由 茶道部のテスト終わりの部活動少し作法を忘れて焦る

西 萌々子

三重県立
紀南高等学校

自由 あとすこしあつという間の高校生少しさみしいけどうれしい

小川 日麻莉

岡山県立
高梁高等学校

題 白い雲元見れば波ゆれてキラキラ光る夏の海

大和 優依

岡山県立
高梁高等学校

題 願はくは玉野の地にて夏過ごさん潮風香る玉のひとつき

ジョン

岡山県立
高梁高等学校

題 夏海を鼻を赤くし待ち焦がれどこか寂しい冷たい潮風

小見山 詞羽

岡山県立
高梁高等学校

題目がらを耳にあてて音を聞く目をとじればそこはもう海だ

篠原 舞

岡山県立
高梁高等学校

自由 冬の夜隣を歩く幸せがあなたと一生続けばいいのに

青木 千歩

岡山県立
高梁高等学校

自由 恋心あなたが勝手に盗んだならそのままはなさず持つてよ

関 向日葵

岡山県立
高梁高等学校

自由 さりげない気遣いに気付き君に問う答えは笑顔が見たいだけだと

平松 凧彩

岡山県立
高梁高等学校

自由 この恋に私の全てを捧げよう願ってしまった貴方といたいと

中村 美結

岡山県立
高梁高等学校

自由 すれ違う廊下であなたと合う視線どうかあなたに気付かれませんかのように

瀬川 莉彩

岡山県立
高梁高等学校

自由 初詣願ひ事はただ一つあなたと共にいれますように

堀 さくら

岡山県立
高梁高等学校

自由 高三の冬に恋した女の子学びか恋かあたま悩ます

増田 穂香

岡山県立
高梁高等学校

自由 雪合戦みんなと遊ぶ楽しいなイルミネーションとてもきれいだ

岩永 莉央

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 光る波照らす太陽青い空潮風涼し風鈴の音

大林 紗輔

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 仮装して街灯灯る町の中十月の終わり楽しけり

岡崎 星琉

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 部活行き先ぱいがいってその中で練習も試合もいっしょにして楽しい

梶木 哲也

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 あきになりつめたいかぜがふきはじめおつきみうさぎがおどっている 北尾 元志
玉野市立 玉野商工高等学校

自由 気が付けば外はとつても寒くなり冬をだんだん感じる今日 金城 留伊
玉野市立 玉野商工高等学校

自由 起きれない寒い寒い冬の朝お鍋を食べる季節かな 北田 陸渡
玉野市立 玉野商工高等学校

題 暑い夏水着を片手に海へ行き潮水浴びて思い出作り 工藤 大空
玉野市立 玉野商工高等学校

自由 冬の日にみんなが待ったクリスマスみんな寝ているはいプレゼント 國澤 健真
玉野市立 玉野商工高等学校

自由 もうすぐで秋が終わって冬が来て早く食べたいショートケーキ 鷺原 權伍
玉野市立 玉野商工高等学校

自由 我慢して乗り越えられたらでかいはずあまり会えない恋人は受験生 崎山 隼翔
玉野市立 玉野商工高等学校

自由 お正月リズムに乗せておもちつきついた数ほど幸せ運ぶ 武田 雄輝
玉野市立 玉野商工高等学校

自由 さくらまうあたたかいはるきもちいいわかれもあればであいもある 立藤 然
玉野市立 玉野商工高等学校

自由 恋人と早くしたいな良い暮らしもめて気付ける大切な人 中田 結斗
玉野市立 玉野商工高等学校

題 浜辺で貝を拾っている子どもたちはとても楽しそうでよかった 浪越 孔太郎
玉野市立 玉野商工高等学校

自由 ポカポカとこたつの中でみかん食べ親と話す学校のこと 藤本 湮
玉野市立 玉野商工高等学校

自由 目が覚めてリモコン探すボタン押す暗く見えぬが暑くて寝れぬ

藤原 彪馬

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 受験の日はじまりの朝桜咲く受験時間才能開花

正木 愁雅

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 秋になりつめたい風がふきはじめ日なたで少し昼寝をしよう

町羽 柊弥

玉野市立
玉野商工高等学校

題 晴れた日に船で釣りへと海でたら沖ではたらく大きな船

松本 匠

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 厳しいけどバスケットボールおいかけて先輩とすごす楽しい時間

マルチニス
マテウス 直也

玉野市立
玉野商工高等学校

題 海へ行き空の光をもろくらい体全身黒くなりけり

三浦 稔規

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 笑顔とね思いが込もったチョコレートすぐにほおぼる甘い思い出

綿地 琉生

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 友達ができず悲しむ春と夏冬の間にてきてるといいな

石田 拓亜

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 バレーボール激闘の末勝利してチームとともに喜んだ試合

市森 なな

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 よりかかる期待していた映画でもウトウトするよ結末はなに

井野川 寧々

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 カラオケを二人で楽しむその一方届かぬ想いを恋歌にのせ

今井 海斗

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 久々にいとこと会って話すとき商店街のようだった

内田 奈未乃

玉野市立
玉野商工高等学校

自由	日曜日家族四人ですごしたりお出かけするのが私の楽しみ	大本	和心	玉野市立 玉野商工高等学校
自由	家族との何気ないことたくさんの思い出があり心が晴れる	大山	笑恋	玉野市立 玉野商工高等学校
自由	自転車を買って初めて乗った日に友達が言う倒れているよ	小野	真那刀	玉野市立 玉野商工高等学校
自由	日替わりのケーキを求めて休日に一人で行きます自転車で	亀田	のぞみ	玉野市立 玉野商工高等学校
自由	お正月家族みんなでおみくじを今年の運せい大吉ねらうぞ	小銭	優月	玉野市立 玉野商工高等学校
自由	冬休み過ぎ桜の花が咲く頃に草木が育つ決心育つ	斉藤	瑠莉	玉野市立 玉野商工高等学校
自由	初めての公式戦で県大へ赤信号がいとひかりけり	佐藤	古都	玉野市立 玉野商工高等学校
自由	音楽とゲームを合わせ音ゲーだボカロでゲームレツツプレイ	嶋田	温介	玉野市立 玉野商工高等学校
自由	銀閣寺銀銀で銀だったキラキラ光る銀はシルバー	鈴木	京介	玉野市立 玉野商工高等学校
自由	弓道部入って初の中国大会強者揃いで度肝抜かれた	十亀	温人	玉野市立 玉野商工高等学校
自由	タイガース久しぶりの日本一一道道頓堀に飛びこみすぎた	野口	冬真	玉野市立 玉野商工高等学校
自由	クリスマスねんにいちどの楽しみだみんなでワイワイごちそうだ	藤原	琉乃介	玉野市立 玉野商工高等学校

自由 クリスマス心が踊るプレゼントイルミネーションいとひかりけり

松元 葉月

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 自分の体調いつも悪くしんどくて理由が分からず頭の中もやや

的場 直樹

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 八月はやりたいことがたくさんだ祭りに花火全部叶えよう

三村 望央

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 ともだちと一緒にあそんだおもい出はわすれられない宝になるだろう

吉村 龍志

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 最高に私のペットかわいいよ私のとなりずつとよろしく

石井 ジェニア

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 学校の校舎から見る紅葉は大風に吹かれ落ちるもみじの葉

石井 勇斗

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 音楽は聴いてるだけで幸せだ落ちつく曲は心も落ちつく

石田 由貴

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 枕投げ恋バナ夜ふかし楽しいな明日になるともう最終日

入江 伶梨

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 毎年誰かとすすクリスマス今年誰とすすごそうか

岩崎 瑛麻

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 さむいふゆみんなでつくるゆきだるまことしはゆきがつもるといいな

大前 七海

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 さみしいよ突然の別れお告げなくひとり家路に咲く秋桜

大前 希碧

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 秋が来て衣替えがされてきて冬の準備がはじまりでした

岡山 実路

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 水族館家族みんなで楽しんで水槽に映る元気な笑顔

檜村 紗衣

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 秋の日に思いがけず現れたテレビの中に映る笑顔

藤田 将気

玉野市立
玉野商工高等学校

題 太陽がキラキラ光る渋川で心おどらせ夏のはじまり

池元 武尊

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 冬が来たサンタさんがねプレゼント持ってくるよわくわくするよ

石塚 姫菜

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 秋の風日が暮れるのが早まって家族みんなで食卓を囲む

一守 美空

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 夜に聞く好きな音楽いつもより歌詞の内容深く感じる

大前 美稀

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 お正月親や親せきやつてきてお年玉いっぱいもらえたよ

沖野 眺悠

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 休日に姉兄たちとやるバスケットを取られて悔しいな

鎌田 小雪

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 朝起きて秋の匂いになつかしい涼しい風で秋が始まる

河合 雅弥

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 茶華道部日本の文化大切だあたかのお茶ときれいな花

黒田 陽南子

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 イヤホンでバンドの曲を聞いていると気づかぬうちに日が暮れている

児仁井 心

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 因島自然豊かできれいだなはつきくもあつてすごくいいな

坂田 悠

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 紅葉の色とりどりの山見上げ涼しい風と秋の訪れ

坂本 汐音

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 妹のおこった顔もも桃みたい萌芽に育った桃みたい

武智 心結

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 家族旅行肌寒い秋温泉にもみじが浮かぶ露天の外湯

竹本 莉依

玉野市立
玉野商工高等学校

題 炎天下砂浜広がる渋川で流れて落ちる汗の一粒

田中 天

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 授業中経つのが遅い五十分友と遊べば一瞬なのに

西藤 朱里

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 洗い物泡でつるつる落とすかなドキドキ止まらずひや汗染みる

原口 涼太

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 前までは暑い夏だが気づいたら季節が変わり凍える冬に

藤田 航海

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 澄んでいる空を見ながら友達と帰るうれしい何気ない日々

古米 志帆

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 一番に名前かいておどろいた先生発表自分前来る

堀 秋香

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 音楽はとってもいいよなんでかな落ちつくリズムが最高だよ

松田 百合花

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 金使い気づけばすぐに無一文貯金をしてもすぐに無くなる

目黒 航太郎

玉野市立
玉野商工高等学校

自由 夏休み高校野球がんばるぞ優勝目指してとりくむぞ

脇田 陸翔

玉野市立
玉野商工高等学校

題 渋川の波ゆらゆらと流れゆく声が聞こえて砂付く足や

小林 瑠奈

ノートルダム清心学園
清心女子高等学校

題 「よーいしょっ」 クラスの心をひとつにし進むカッター 渋川の夏

佐藤 亜衣

ノートルダム清心学園
清心女子高等学校

題 ひとり泣く夕日が沈む西の空波音だけがそっと寄り添う

藤原 梨華

ノートルダム清心学園
清心女子高等学校

題 青満ちていなくなってしまうれば波がまだだと止めているけど

林 美里

ノートルダム清心学園
清心女子高等学校

自由 街灯に東京湾が彩られ帰るころには冬時雨かな

見山 唯

武蔵野大学附属
千代田高等学院

自由 轟音と燦燦と降る光の矢砂鉄に紛れる焼夷弾かな

北村 悠真

武蔵野大学附属
千代田高等学院

自由 秋の道空の頭で歩いたらひらっと腕に葉が落ちて来る

松本 尚也

武蔵野大学附属
千代田高等学院

自由 ひとときの波にさらわれ宝物十二年間探し続けて

山本 真海

武蔵野大学附属
千代田高等学院

自由 道端に姿現す一つの芽誰もわからぬ秘められた根よ

岩崎 心杏

武蔵野大学附属
千代田高等学院

自由 果てのない常闇に浮く月と歩く哀しさ連れて一緒に歩く

芝辻 紅玲愛

武蔵野大学附属
千代田高等学院

自由 茜さす淡く染まった雲海に機内で一人目を見開いて

村上 直輝

武蔵野大学附属
千代田高等学院

題 誰よりも深い友情が欲しくって溺れた海で気付く温い嘘

鳥野 空音

神奈川県立
光陵高等学校

題 教室のカーテンが揺れ思い出すまだ潮騒を探していたこと

猪野田 涼奈

神奈川県立
光陵高等学校

題 ひたすらでないかと周りが見えるから浮き輪もなしに波にのまれて

虎西 我武

神奈川県立
光陵高等学校

題 水中のゼリーフィッシュのほほえみが層雲みたいにポヒュポヒュしてる

佐野 晃太

神奈川県立
光陵高等学校

題 風邪で寝て側にいるキミのスプーンに縋る姿はチンアナゴかな

州崎 大知

神奈川県立
光陵高等学校

題 川の水で涙を洗った神様が海をこんなにしちゃったなんて

山本 未生

神奈川県立
光陵高等学校

題 広大な海にじゃぶんと飲まれてさ岡山県まで漂流したい

池上 真央

神奈川県立
光陵高等学校

題 抜け殻の栄螺を耳に当てがって何にも聞こえなくても響け

北原 大地

神奈川県立
光陵高等学校

題 人間が雲上を舞うようになり海に還りたいわし雲たち

池野 弘葉

神奈川県立
光陵高等学校

題 海ってさなんか優しい気がするよと君はベタつく足を摩って

樫下 小春

神奈川県立
光陵高等学校

題 嘘というテトラポットを積み上げてあなたの波に飲まれないよう

藤井 渚央

神奈川県立
光陵高等学校

自由 水汲み場神に瑠璃蝶おわす場所足のバツタに飛躍の予感

綺音 柚結

学校法人理知の杜
松本国際高等学校

自由 食器用洗剤みたいに苦い夜歩幅が少しずつ狭くなる

池田 玲亜

滋賀県立
膳所高等学校

題 嵐過ぎ何処から来た流木よ静かな浜で出会い語らう

永梨

高田学苑
高田高等学校

自由 背骨から生まれるごとく殻を割り変態とげて蟬夏空へ

林 虎次郎

岡山県立
玉野光南高等学校

題 波に訊く私は何処へ向かうのと地球に脈打ち光へ消えた

宮本 紗有

京都つくば
開成高校

自由 チクタクと進む毎日神の糸

田中 希代子

大妻中野
高等学校

題 煩ひて北面を辞す神無月秋寂ければ身もまた寂し

味醂

帝京大学系属
帝京中学高等学校

題 夜の海ひかり輝くお月様十五夜の夜に満潮なり

ひじ

学校法人上田煌校学園
さくら国際高等学校

自由 トンネルを抜けた先には岩手山めいっばいに雪化粧して

酒楽

東京都立
鷺宮高等学校

自由 横たわる丸石みたく生きている数十億が転がる星に

金光 舞

星野高等学校

自由 言い聞かす “あの子と私は違うから” 精一杯の強がりだけど

賀須井 琴美

豊島岡
女子学園高校

題 立ち上がり日差しの中の友達にいる春海を考えている

愛川 來海

埼玉県立特別支援学校
坂戸ろう学園

題 波白し貝がいるよとはしゃぐ君靴下濡らし失笑す

秀島 弘兼

長崎南山高等学校

題 灘響をもう少しだけ心情に突き刺し君は透明になる

とわ

第一学院高等学校

自由 幼な子の金魚ねぶたがヤーヤードー 津軽音頭と蝉の囀り

たいし

兵庫県立
伊丹高校

自由 コーヒーとシャーペンを持ちいざ行かん課題の海の大航海へ

ゆう

宮崎県立
宮崎西高等学校

自由 逆境も乗り越え挑め冬を越し花見るまではまだ止まらない

藤原 早穂

岡山県立
岡山操山高校

自由 広い海悠悠泳ぐ魚たち紛れて浮かぶ科学のクラゲ

小西 裕大

静岡聖光学院
中学校・高等学校

第十一回 西行賞短歌募集要項

■投稿作品

短歌「自由詠」「題詠」（お題／海に関連するもの・渋川・西行）の部

一人一首ずつまたはいづれか一首

※自作で未発表の作品に限る。

■投稿資格

高校生以上の方

■出詠料

一人千円（ただし、高校生は無料）

投稿者全員に作品掲載冊子（一人一首）を送付

出詠料未払の場合は審査及び掲載対象外

■投稿方法

玉野市教育委員会社会教育課に持参、郵送またはメール
①応募用紙、または四〇〇字詰め原稿用紙のいずれかに、投稿作品、住所、氏名、電話番号を記入し投稿し
てください。

※すべて楷書で記入してください。

②投稿料は応募先に持参または郵便小為替・現金書留

■募集期間

令和五年九月一日～十一月十七日（当日消印有効）

■応募先・問い合わせ先

〒七〇六一八五一〇

岡山県玉野市宇野一丁目二十七番一号

玉野市教育委員会社会教育課内

玉野市西行賞実行委員会

TEL 〇八六三一三二一五五七七

■賞

西行賞（最優秀賞） 一点（西行賞の受賞は一回限り）

優秀賞 三点

佳作 六点

特別賞 五点（高校生）

※各賞に賞状、副賞があります。

■選者

日本歌人クラブ 理事 濱田 棟人 先生

■主催

玉野市西行賞実行委員会

■共催

玉野市文化協会短歌部

玉野市教育委員会

玉野市

■後援

玉野市観光協会

渋川観光協会

■表彰式

第三十二回西行まつり

第十一回西行賞表彰式

日時 令和六年三月三日（日）

場所 玉野市渋川海岸

